

自動車リサイクルに貢献する全国ネットワーク



CSRレポート 2008

Corporate Social Responsibility Report

社会から信頼される企業集団をめざして

www.ngp.gr.jp



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 環境委員会

〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33長田ビル2F
TEL.03-5475-1208

2008年10月1日発行



古紙/バク配合率60%再生紙を使用



大豆由来インクを使用しています

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

持続可能な地球環境保全活動に取り組みながら 新たな環境経営を創造していきます。

地球温暖化、環境汚染、資源の枯渇など、環境問題はかなり深刻です。自動車業界においても、CO₂汚染、産業廃棄物など環境負荷を与えている印象はぬぐえません。自動車リサイクル部品は使用済自動車から取り外され、品質基準をクリアした商品で、循環型社会の形成に、今後も利用の普及を啓蒙していかなければなりません。また使用済自動車の適正処理も今以上に厳重に取り扱うことが使命と考えています。



CSRレポート 2008 CONTENTS

トップメッセージ	3
NGP協同組合基本理念・行動指針	4
NGP協同組合の商品	6
NGP協同組合の概要と事業報告	8
NGP協同組合のマネジメント	12
お客さまとともに	14
NGP協同組合の環境マネジメント	16
お取引先とともに	23
従業員とともに	24
第三者意見	25

世界品質と言える自動車リサイクル部品の安定供給を 私たちの使命として、社会的責任を果たしていきます。

「地球内企業」としての 責任を果たすために

NGPは2001年に、環境活動の基本理念「21世紀宣言」を提唱、「NGP環境行動指針」を公示し、廃自動車処理における社会的貢献の実現に向けて活動してまいりました。その後「環境報告書」「CSRレポート」の発行などによる社会への情報開示と環境マネジメントの定着を目指しております。

2005年の自動車リサイクル法施行後、自動車解体業界は大きく変化し、業界の役割は一気に環境時代の最前線となり、円滑に機能しなければ国内外に及ぼす社会的責任は重いという認識になりました。

地球環境意識の高まりは、自動車業界の積極的な対応が必要となり、使用済自動車のリサイクル、中でもリサイクル部品はその利用が注目されています。

我々は昨年ISO9001の認証を取得して、提供する自動車リサイクル部品の品質を「世界品質」として提供する体制を構築しました。一般ユーザーに使用済自動車の適正処理意識の向上と、自動車リサイクル部品利用による修理の啓蒙を推進して社会・生活・文化に貢献する企業集団をめざします。

コンプライアンス体制の強化と 良識ある社会市民として行動します

NGPはコンプライアンスを事業活動の大前提であると位置づけています。組合員および社員ひとりひとりが法令遵守・社会規範・企業倫理に誠実に行動する体制の整備、教育の研修などに取り組んでいかなければならないと思っています。組織の倫理を継続的にイノベーションできる風土づくり、不正防止、責任体制の確立を図り、良識のある行動を求めていきます。

安全と環境に配慮した 事業活動を推進します

商品製造過程のCO₂の発生をはじめ、事業所における事故は地域と地球環境に多大な悪影響を及ぼす可能性があります。我々はどのような状況であっても「安全と環境」を最優先します。それぞれの事業所でISO14001の認証取得に取り組んでいます。

また大量の産業廃棄物、有害物を取り扱うため、万一の緊急事態に備え、安全管理・危機管理体制を整備していくことを誓います。

ステークホルダーの皆さまとの コミュニケーションを強化・推進します

我々 NGPグループは全社一丸となり、CSR経営に取り組んでいます。経営トップ、スタッフに至るまで全員が「ステークホルダーに支持される企業づくり」をめざし、皆さまとのコミュニケーションに一層努めていきたいと思っております。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 大橋 岳彦

基本理念と行動指針を实践

基本理念は、当組合の進むべき姿であり、その実現に向けて組合員が共有すべき価値観・心構えを示したものです。また、行動指針は、基本理念を实践するための行動基準を示しています。

組合員一人ひとりが日々これを念頭において行動することが、当組合のCSR活動の基本となっています。
(2002年1月制定)

基本理念

これからも環境リサイクル時代の 社会貢献活動に取り組みます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合の前身であるNGPグループは1985年（昭和60年）に結成され、2004年には国内唯一の経済産業大臣認可の事業協同組合として組織を法人化いたしました。

環境問題や資源問題に対する意識が全世界規模で高まる昨今、国内でも産業の裾野が広い自動車業界では、特に積極的な対応が求められています。

また2005年からは、自動車リサイクル法が完全施行となり、法令遵守、使用済自動車の適正処理が義務付けとなりました。

このような時代背景から、NGPグループではこれまで、従来のリサイクル部品共有在庫ネットワークの運営を行うとともに、使用済み自動車適正処理ネットワークとして全会員参加によるエコ推進運動の展開、損害保険会社・リース会社等の全損車取引マニュアルを作成し、その適正処理を遵守した業務や自動車リサイクル法等の新たな制度説明会などの組織的活動を展開してまいりました。

さらに前述のとおり組織を法人化することで急激に進む環境保全への迅速な対応、専門性を追求する役割に対してNGP協同組合の組合員が果たすべき使命を全うできるよう体制が整いました。

NGP協同組合はこれからも、リサイクル部品の規格統一化、技術教育、啓蒙活動など、環境リサイクル時代の社会貢献活動をNGP協同組合組織活動の主課題として全力で取り組んでいきます。

NGPグループ21世紀宣言

2001年10月

一、我々は、使用済み車輛を
適正に処理します。

一、我々は、自動車リサイクル部品を
全面的に啓蒙します。

我々 NGPグループは、リサイクル部品流通業界のリーダーとして、一人一人が責任を持ち、21世紀の社会に貢献していくことを誓います。2005年施行の自動車リサイクル法に合わせ、地域社会に信頼され、存在価値のあるグループを目指します。

行動指針

- ① 環境保全活動を当グループの最重要課題と位置づけ、グループ全従業員の共通認識とします。
- ② 環境に関する法律、規制、自動車リサイクル法等を遵守し環境保全に取り組みます。
- ③ 環境負荷低減のため、環境目的・環境目標を定め、定期的に見直しを行うことにより、継続的な改善を図ります。
- ④ 工場内における解体作業については、適正かつ効率的なリサイクルが行われるよう解体技術の向上に努めます。また、同時に廃車車輛の全てにマニフェスト発行による管理を徹底します。
- ⑤ 設備の稼働については通常時のみならず、非通常時においても廃棄物の漏残、飛散等の未然防止、及び騒音の削減等の地域環境保全に努めます。
- ⑥ 事業活動全般に関して大気汚染、土壌汚染、水質汚染、悪臭の防止に努めます。
- ⑦ グリーン購入法に基づき、使用物品等を見直し、再生紙などの利用促進をするとともに、電気・水道水等のエネルギー消費の低減に取り組みます。
- ⑧ 定例ブロック会議を通して本方針を全グループ企業に周知させるとともに、グループ全従業員に対して教育し、自覚と意識の向上を図り、広く一般に開示します。

私たちは、自動車リサイクル部品の供給におけるあらゆる過程で、環境と安全に配慮しています。

車社会と地域環境のために リ・ユースという考え方

自動車リサイクル法の施行によって、自動車リサイクルシステムという大きな枠組みは完成しましたが、それだけでは使用済自動車による環境問題・資源問題の解決は不十分です。我が国は毎年400万台の車が廃車になっています。これがそのまま廃棄物になると、400万トンもの廃棄量になります。これは全国で毎年排出される廃棄物（約7,000万トン）の6%になり大きな社会問題です。そこでこの膨大な廃車を再生資源として活かされたのが、自動車リサイクル部品です。リサイクル部品は新たなエネルギーを使用せず、使える部品のみを再使用するの、最も環境負荷の少ない資源の再利用方法と言えます。

自動車リサイクル部品の商品化

入庫した使用済車両は、厳しいプロの目による現車チェックと、商品化可能な部品の選別から始まります。使用済車両を分解し、必要な部品のスチーム洗浄、厳正な機能検査を実施します。点検・性能検査に合格したリサイクル部品は、整備工場での作業性を考慮し、納品後すぐに取付作業のできる状態に仕上げ梱包されます。これらの商品はすべて「NGPシステム」に登録され、倉庫に保管されます。

徹底した品質管理「ギャランティー・シール」



高品質で低価格。自動車リサイクル部品はユーザーにとって大きな魅力を持っています。NGPリサイクル部品には、「ギャランティー・シール」が貼付されています。NGP基準検査を通過した製品の信頼の証明です。

リサイクル部品活用推進店証を発行



一般ユーザーとの窓口になる全国14,000社の優良修理工場に対して「リサイクル部品活用推進店証」を発行し、自動車リサイクル部品の啓蒙と利用と推進のPRに努めています。

自動車リサイクルパーツ生産工程



1 引取

NGP組員は、リサイクル法の許可を持っている会社です。安心してお任せください。速やかに車両を引取いたします。

2 入庫・検査

入庫された車輛はすべてコンピュータに入力されます。このコンピュータネットワークが全国をオンラインで結んでいる「NGPシステム」です。すべての情報はこのNGPシステムに登録されます。

3 生産

フロン(R12,R134)、各オイル、LLC等回収した後、1点でも使用可能な部品を取り外します。1台から平均23点の部品がリサイクルされ、その後適正に処理されています。

4 美化・品質チェック

取り外した部品は1点1点厳正なチェックを行います。外装部品等ではNGPの商品化基準にあった物のみが商品として生産され、また、機能部品でも作動チェック・テスター機器等を使用して、より高度な品質をつくりあげています。これらすべてのNGPパーツには、信頼の証であるギャランティー・シールが貼付されます。

5 登録・在庫管理

数種類のNGP基準検査に合格した商品のみが倉庫の棚に納められます。NGPシステムには、チェックした商品の状態を細部まで登録し、いつでもスピーティに出荷出来るように管理・保管されています。

6 受注・梱包・発送

ご注文時にはNGPシステムを使用して、全国約120万点の在庫をリアルタイムで即座に検索。国産車・輸入車を問わず、あらゆる部品に対応します。丁寧に梱包されたパーツはご注文の翌日には納品されます。

(一部、発送により翌日お届けできない場合があります)

主な自動車リサイクルパーツ

NGPリサイクルパーツは内外装部品・機能部品の324アイテムを生産しております。

ボディ部品	テールランプ CO ₂ 削減量 10.5kg	ヘッドランプ CO ₂ 削減量 10.5kg	ボンネット(フード) CO ₂ 削減量 33.9kg	ドアミラー CO ₂ 削減量 4.5kg
	フロントガラス CO ₂ 削減量 48.7kg	フロントフェンダー CO ₂ 削減量 5.5kg	フロントドア CO ₂ 削減量 96.5kg	フロントバンパー CO ₂ 削減量 19.5kg
	ターボチャージャー CO ₂ 削減量 21.9kg	エアコンコンプレッサー CO ₂ 削減量 24.7kg	シリンダーヘッド CO ₂ 削減量 28.3kg	キャブレター CO ₂ 削減量 8.2kg
	ラジエター CO ₂ 削減量 58.8kg	エンジン CO ₂ 削減量 261.0kg	オルタネーター CO ₂ 削減量 20.3kg	マフラー CO ₂ 削減量 54.0kg
エンジン関係部品	アルミホイール CO ₂ 削減量 7.4kg	リアブレーキ CO ₂ 削減量 24.3kg	サスペンション CO ₂ 削減量 47.6kg	パワーステアリングポンプ CO ₂ 削減量 18.1kg
	デファレンシャルギア CO ₂ 削減量 34.4kg	オートマチックミッション CO ₂ 削減量 179.0kg	ドライブシャフト CO ₂ 削減量 13.6kg	パワーステアリング CO ₂ 削減量 48.1kg

●CO₂削減量は、「新品部品」と「リサイクル部品」の製造過程における環境負荷の差分をCO₂削減効果に換算したものです。
●上記CO₂削減量は早稲田大学・日本自動車リサイクル部品販売団体協議会との共同研究によって示された国産車（排気量1500cc・1999年式クラスの乗用車）の数値を参考にしています。

すべてのステークホルダーの方々と共存共栄を図り、 事業競争力強化と持続可能な社会の実現を目指します。

組織概要

組織名 NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
(所管 経済産業省)

本部 〒108-0074
東京都港区高輪3-25-33 長田ビル

創立 1985年4月

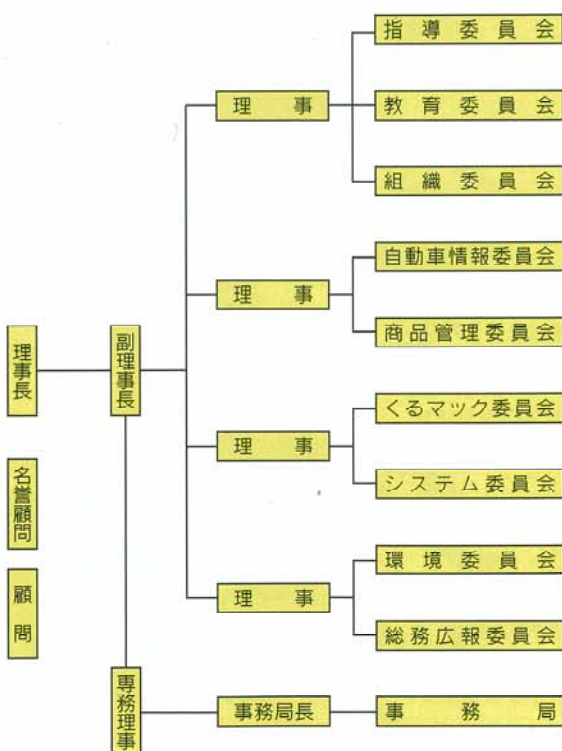
理事長 大橋岳彦

組合員数 145組合員、205拠点

主な事業内容

健全な自動車リサイクル事業の構築を目指し、全国組合員企業の経営意識向上、意識改革までの「企業の社会的責任」を遂行し、補修部品の消費者への啓蒙と販売

組織図



沿革

- 1985年 4月 九州3社により西日本グッドパーツグループとしてスタート
- 1986年 12月 メンバー店19社に
- 1987年 3月 本部設立、事務所を福岡に開設
- 1987年 4月 日本グッドパーツ (NGP) グループに名称変更
- 1987年 10月 第一回総会大会を開催 メンバー 30社に
- 1988年 9月 本部事務所を大分に移転 メンバー 54社に
- 1989年 6月 NGPオンラインネットワーク完成
- 1990年 11月 株式会社エヌ・ジー・ピーを設立
- 1990年 12月 オンラインシステムの導入テストを開始
- 1991年 1月 NGPニュースを創刊
- 1991年 3月 5社によるNGPオンラインシステム開通
- 1991年 10月 第五回総会大会を開催 (5周年記念パーティー)
- 1993年 3月 オートリサイクルショー出展 (千葉・幕張) メンバー店80社に
- 1993年 10月 本部事務所を三重県鈴鹿市に移転
- 1994年 2月 オートリサイクルショー出展 (千葉・幕張) NGP商品に品質保証ギャランティーの実施
- 1994年 4月 業界国際団体ARA (Automotive Recyclers Association) に加盟
- 1994年 10月 NGPグループ新会長に矢田 充就任
- 1995年 11月 日本自動車リサイクル部品販売団体協議会発足、同協議会加盟
- 1999年 10月 第10回総会大会開催 (10周年記念・別府) メンバー店125社に
- 1999年 10月 オートリペア&メンテナンスショー '96出展 (東京・有明)
- 1998年 10月 リサイクル部品協力店14,000店達成
- 1998年 11月 オートリペア&メンテナンスショー '98出展 (東京・有明)
- 1999年 6月 NGPグループ本部を東京に移転
- 2000年 12月 環境経営学会に入会
- 2001年 10月 NGPグループ15周年記念式典開催 (於 国立京都国際会館) 全国トヨタ部品共販へ (株) リサイクル部品供給開始
- 2001年 11月 第2回大阪オートアワードショー出展 (大阪)
- 2002年 1月 (株) 安心ダイヤルリサイクル部品受注センターへリサイクル部品供給開始
- 2002年 2月 第1回国際オートアフターマーケットEXPO2002出展 (千葉・幕張)
- 2002年 6月 日動火災海上保険 (株) ヘリリサイクル部品供給開始
- 2002年 7月 スーパーライン在庫登録点数が100万点を突破
- 2002年 11月 『環境報告書 (2002)』 創刊
- 2003年 3月 NGPグループ・IOエコパートナー全国説明会をスタート
- 2003年 3月 臨時総会開催 NGPグループ新会長に青木勝幸就任
- 2003年 6月 ISO14001認証取得会員 40社到達
- 2003年 7月 新NGPオンラインシステム本格稼働
- 2003年 8月 NGPグループ本部、東京品川に移転
- 2003年 11月 株式会社スーパーラインが株式会社NGPに社名変更となる
- 2004年 10月 NGP日本自動車リサイクル事業協同組合として設立総会開催
- 2005年 3月 国際オートアフターマーケットEXPO 2005出展 (4年連続出展)
- 2005年 5月 日本自動車車体整備協同組合連合会に賛助会員として入会
- 2005年 6月 NECソフトとの共同開発による新NGPシステム完成
- 2005年 9月 NGPシステムとJAPRAシステム相互利用に合意
- 2005年 10月 組合員149社 205拠点に
- 2005年 11月 廃車買取「くるマック」全国展開
- 2005年 12月 日本自動車車体整備協同組合連合会と第一次NGPダイレクト試験運用開始 (2社)
- 2006年 1月 「くるマック」全国34局ネットでラジオCMスタート
- 2006年 1月 JAPRAメンバー第一次NGPシステム導入研修会
- 2006年 3月 第5回国際オートアフターマーケットEXPO2006出展 (千葉幕張) JAPRAメンバー NGPシステム運用開始
- 2006年 6月 マツダ部品販売 (株) ヘリリサイクル部品供給開始
- 2006年 7月 NGPと日本ローカルネットワークシステム協同組合と共同で新輸送システムの研究開始。
- 2006年 8月 BSサミット向けNGPダイレクト運用開始
- 2006年 8月 あいおいエコパートナーへのNGPダイレクトシステム展開
- 2006年 10月 第2回NGP日本自動車リサイクル事業協同組合通常総会
- 2006年 10月 ロータス会員へのNGPダイレクトシステムの展開
- 2006年 12月 エコプロダクツ2006出展 (東京ビッグサイト)
- 2007年 1月 JA共済連と全損車両回収の業務提携
- 2007年 2月 NPO法人世界 (旧: 広島未来グループ) 入会
- 2007年 5月 早稲田大学・JAPRA・NGP共同でCO₂削減効果のデータベース構築
- 2007年 7月 オートボックスセブンと車両引取の業務提携
- 2007年 9月 ISO9001認証取得 (NGP組合本部)
- 2007年 10月 第3回通常総会にて大橋岳彦理事長選任
- 2007年 12月 エコプロダクツ2007出展 (東京・ビッグサイト)
- 2008年 3月 国際オートアフターマーケットEXPO2008出展 (東京・ビッグサイト)
- 2008年 6月 NGPダイレクトシステムを全面リニューアル
- 2008年 9月 海外向けNGP個別ダイレクトシステムの運用開始

2007年度の事業報告

当期における我が国経済は、海外経済拡大の好調が継続しつつ緩やかな成長をつづけるものと予測されましたが、後半にはいり、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安による株価下落、円高、原油価格、諸物価高騰等の影響を受け、2002年から6年にわたった回復基調が途切れ急激な景気減速局面へと変化いたしました。

企業を取り巻く経営環境も、世界経済同時不況の連鎖により収益要因の悪化を来し、企業の生産と設備投資は一段と減退し、更に一般消費者心理が冷え込む局面となり、当面の景気低迷は長引くことが懸念され、中小企業経営はますます厳しい環境に陥る時代になるものと予測されます。

このような経済状況の中、自動車業界の現状も例外ではなく、国内登録車販売台数が、対前年比で約8%低下し、約350万台と低調に推移し、過去増加を続けてきた国内自動車保有総台数が初めて減少に転じる状況となりました。

また、自動車分解実態調査結果によれば、平成19年度総整備売上高は、昨年の6兆円の大台を割り込み5兆9524億円と減少する厳しい結果となっています。

我々の自動車リサイクル部品業界においても、平成19年度の自動車リサイクル法状況実態報告では、使用済自動車引取報告件数が370万9千台 (対前年比104%) と増加となっているものの、年初より7月まで続いた鉄スクラップ相場の高騰により、車両仕入価格競争が一層激化し、各組合員への収益面にも大きな影響を及ぼす激化変動の1年であり今後の不透明要因を考えますと一瞬たりとも楽観できません。

このような中、NGPグループの今期実績は、年間引取台数690,515台の対前年比111.8%を達成しました。また、リサイクル部品総売上金額は、361億6,340万円の対前年比102%となり、リサイクル部品総生産金額は、121億1,737万円の対前年比103.1%と全ての指標で前年実績を上回る結果となりました。

当期組織運営のテーマは、「NGPイズム」の実践と「NGPブランド」の確立で、更に「強いNGP」を掲げて活動してまいりました。

具体的な事業計画では、①総合システム戦略 ②生産・販売拡大戦略 ③対外組織戦略 ④人材育成戦略の各戦略項目を具体的に明示し、理事会と委員会活動の連携を図りつつ事業推進をいたしました。

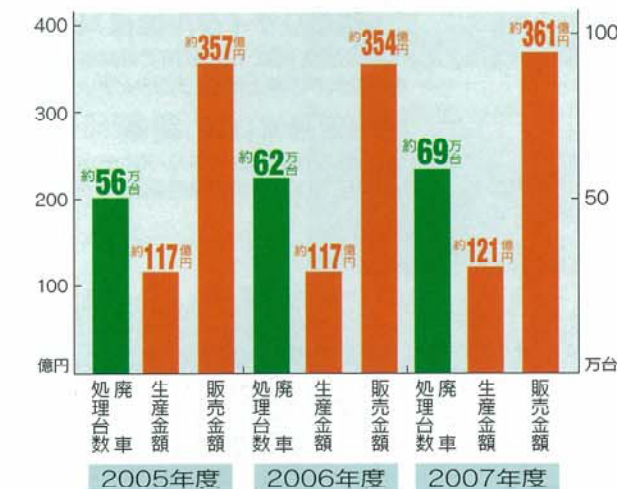
その戦略項目の主な成果物としては、①新NGPダイレクトシステムのリリースと画像添付機能の実現、くるマックキャンペーン施策の実行 ②他団体へのNGPシステムユーザー拡大、他システム一部開放による部品供

給の活性化 ③大手修理工場全国組織のリサイクル部品利用拡大④新規研修カリキュラムの開発と実施などが挙げられます。

また、早稲田大学・JAPRAの共同研究によって発表された、リサイクル部品使用によるCO₂削減効果を広く社会に訴え、リサイクル部品修理が地球温暖化抑制に役立つと言う啓蒙活動を目的として、エコプロダクツ2007出展も実行いたしました。

物流プロジェクトでは、環境配慮のリサイクル部品流通研究として、梱包材のテスト実施を行うなど、社会的責任を高める活動にも積極的に取り組みました。

NGP協同組合使用済自動車処理台数と自動車リサイクルパーツ生産・販売金額



主な関係会社

株式会社NGP

NGP協同組合の関連会社で、2003年9月にNGP協同組合本部と同一事務所 (品川) に本社を移転し、組合と一体体制のもと、NGP協同組合支援を中心に事業活動を展開しています。

その事業内容は、NGPシステムの運営管理、損害保険会社及びリース会社等の使用済自動車引取業務、ISO14001のコンサルティング等で幅広く会員企業の経営拡大をサポートしています。

また、新たな自動車リサイクル時代に向けて、新システム活用の「NGPダイレクト」や「新事故車画像システム」を開発するなど、グループ戦略を推進しています。

株式会社NGP会社概要

- 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33 長田ビル
- 創立 / 1990年11月
- 代表取締役 / 大橋岳彦
- 資本金 / 4,000万円

2007年度活動の取組み

2007年
9月

ISO9001の認証取得

9月6日認証登録

「第15回初級営業マン研修会」実施

9月6日～8日(3日間)東京新木場BumB東京スポーツ文化館にてオーナーを含む10名参加で実施。

「くるマック」ティッシュを配布

「廃車買取りのくるマック」をPR用にポケットティッシュを製作。組合員各社に各2,000個を配布。



「第15回基礎研修会」実施

9月12日～15日(4日間)東京新木場BumB東京スポーツ文化館に組合員の若手従業員99名参加。



10月

「自動車リサイクル推進月間」キャンペーン実施

10月18日、東京・品川駅前で自動車リサイクルと再生部品の利用拡大の啓蒙運動の一環として本部職員が昨年と同様、チラシとティッシュを配布した。



「第3回通常総会」開催

10月29日東京・品川プリンスホテルにて300名の来賓・組合員が参加。大橋理事長選出、新体制に移行。



11月

「初級講師・指導員合同会議」を実施

11月16日・17日、東京五反田ゆうほうとにて30名参加



12月

「エコプロダクツ2007」に出展

12月13日～15日(3日間)東京有明のビックサイトで国内最大規模(来場者15万人)の環境展「エコプロダクツ2007」に昨年に続き出展。



「グリーンポイントクラブ」に参加

CO₂削減効果を広くPRするため「グリーンポイントクラブ」をリサイクル業界(12団体)で設立・加盟



2008年
1月

「第1回ハイブリッドカーセミナー」実施

1月8日・9日、静岡県裾野市・あいおい自動車研究所東富士センターで25名が参加してハイブリッドカー特別講習会を実施

平成20年度新春交歓会開催

1月25日東京品川プリンスホテルにて40名参加。



2月

「初級講師会議」実施

2月15日・16日本部会議室に25名参加

ISO9001取得後の初回内部監査実施

2月26日本部会議室

3月

「第15回中級研修会」実施

3月10日～14日(5日間)静岡県裾野市・あいおい自動車研究所東富士センターに38名参加

「第2回ハイブリッドカーセミナー」実施

3月26日・27日、静岡県裾野市のあいおい自動車研究所東富士センターにて14名の参加

「第7回IAAE国際オートアフターマーケット」出展

3月13日～15日、東京有明ビッグサイトで開催されるオートアフターマーケットEXPO 2008に出展。



4月

「第1回初級フロントマンSTEP UP研修」実施

4月2日・3日、静岡県裾野市・あいおい自動車研究所東富士センターにて9名参加。

「第16回基礎研修会」実施

4月18日～21日(4日間)東京新木場BumB東京スポーツ文化館に95名参加。



5月

「JAPRA会員向けシステム講習会」実施

5月10日・11日本部会議室12名参加。

「第16回初級営業マン研修会」実施

5月25日～27日(3日間)東京新木場BumB東京スポーツ文化館に17名参加。



6月

洞爺湖サミット記念環境展に北海道支部が出展

6月19日～21日札幌ドームで環境総合展2008に北海道支部が出展

「第2回初級フロントマンSTEP UP研修会」実施

6月25日・26日、静岡県裾野市・あいおい自動車研究所東富士センターに8名参加

7月

「産業構造審議会、中央環境審議会、第12回合同会議」傍聴

7月11日東京・三田共同会議所

8月

「第40回初期指導研修会」実施

8月21日～23日 札幌・NTT北海道セミナーセンターに4名参加

「第16回中級研修会」実施

8月25日～29日 静岡県裾野市・あいおい自動車研究所東富士センターに38名参加



コーポレートガバナンス

当組合は基本理念の実践を通じ、よき企業市民としての社会的責任を果たしています。その一環として、経営の効率性や透明性を確保するためのさまざまな取組みを推進しています。

ISO9001認証から始まるCSRの実施体制

当組合は、平成19年9月、品質マネジメントの国際規格であるISO9001の認証・登録を受けました。私たちの扱う補修部品の品質向上は、リサイクル部品使用率の拡大に繋がるものと考えます。

当組合は、法人化により、自動車補修部品業界の発展及びこの業界で働く人たちの地位向上を成し遂げて、次は私たちの業界が循環型社会形成の中心的存在として、またCSR経営に努力していくことによって、持続可能な社会に共生・構築をしていきたいと考えています。

2002年の基本理念・行動指針制定以来、理事長を議長として各部の管掌・担当役員全員がメンバーとなり、基本理念およびCSRに関する全社的な課題についての方針や対応を毎月定例として検討しています。

さらに経営の効率性および透明性についてより一層の向上を図っています。

内部統制を強化する体制を構築します

組合員は、職務の執行に当たり、関連法令ならびに当組合定款、基本理念、コンプライアンス基本規制および個別の社内規則、通達等を遵守するものとし、これを確保するため、特に品質マネジメントシステムにおいて、右の体制を整備しています。

役割と品質目標を整備しました

(1) それぞれの役割

① 理事長の役割

理事長の役割は、当組合組織の品質マネジメントシステムの構築及びその実施、並びにその結果が、計画どおりに達成されるよう、継続的に改善することです。

② 品質管理責任者の役割

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合品質マネジメントシステムにおいて、品質管理責任者は専務理事と位置づけられています。品質管理責任者は理事長を補佐し、品質マネジメントに関する業務の

一切を統括します。

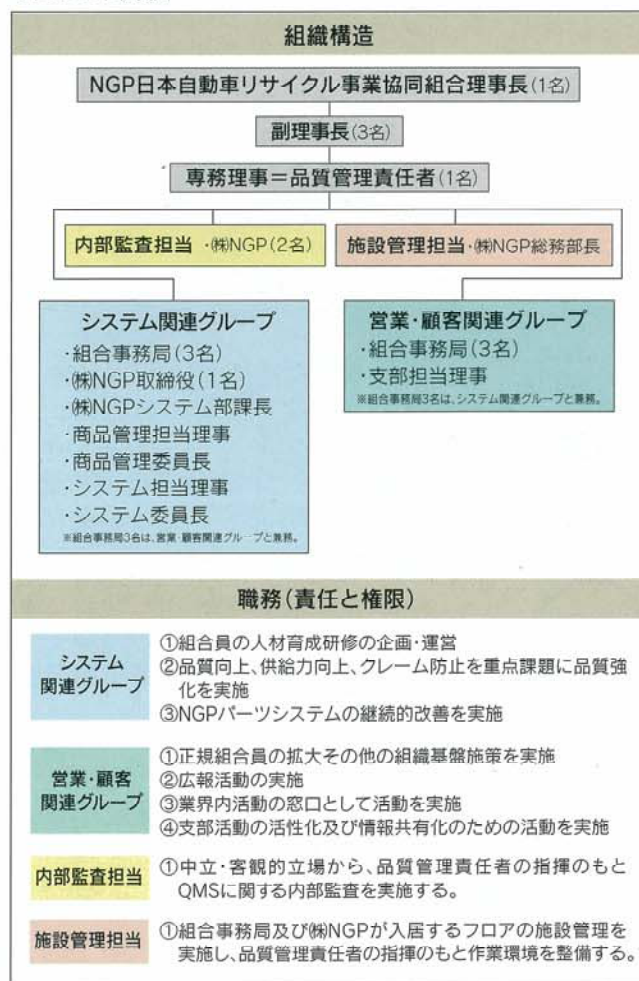
③ システム関連グループの役割

システム関連グループは、『商品化基準』及び『NGP パーツシステム』の制作・運用管理を中心に活動します。組合員からの意見を吸い上げ、それを改善へとつなげていきます。

④ 営業・顧客関連グループ

営業・顧客関連グループは、各支部の活動と連携しながら、『商品化基準』及び『NGP パーツシステム』の制作・運用管理に関する組合員からの意見や苦情を収集・分析し、改善のための活動を実施します。

マネジメント組織図



コンプライアンス/リスクマネジメント

当組合はコンプライアンスがあらゆる事業活動の原則であると位置付け、基本方針、具体的基準および実施体制を規則に定め、コンプライアンスを徹底しています。

コンプライアンス基本方針

基本理念に基づき、組合企業の経営トップが率先し一人ひとりが公の立場にたつて、法令遵守はもとより社会規範・企業倫理に則って誠実に行動するものとして、そのため企業の組織風土を継続的に変革するとともに、不正防止、責任体制の確立に取り組むことを基本方針として定めています。

コンプライアンスの具体的基準

上記基本方針に基づき、組合員が遵守しなければならない具体的基準として、次の22項目を掲げています。さらにコンプライアンス基本規制では、その他すべての関連法令も遵守対象と定めています。

コンプライアンスの具体的基準(22項目)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 安全管理 | 13. 不当差別の禁止 |
| 2. 環境保護 | 14. セクシャル・ハラスメントの防止 |
| 3. 消費者保護 | 15. 個人情報の保護 |
| 4. 独占禁止法の遵守 | 16. 児童労働、強制労働の防止 |
| 5. インサイダー取引の禁止等 | 17. 利害相反行為の禁止 |
| 6. 不正競争防止法の遵守 | 18. 会社資産の使用禁止 |
| 7. 政治家、官公庁、公務員との公正な関係 | 19. 会社情報等のセキュリティ確保 |
| 8. 情報開示、責任説明 | 20. 適正な輸出管理 |
| 9. 反社会的勢力への対応 | 21. 投機目的取引の禁止 |
| 10. 適正な会計処理 | 22. 危機管理の徹底 |
| 11. 労働時間等の公正申告 | |
| 12. 贈答品等の受領禁止 | |

コンプライアンスの実施体制

当組合におけるコンプライアンスは、理事会の下部組織として設置された委員会を中心に推進されています。コンプライアンスに係る教育・啓蒙活動方針を策定するほか、重点テーマについて、取組状況を把握し、評価しています。

リスクマネジメント

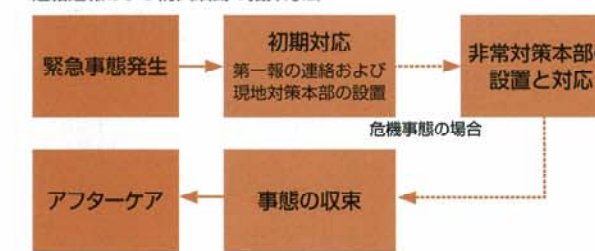
リスクマネジメントは、リスクアセスメント(事前対応)、リスクコントロール(発生時対応)およびリスクコミュニケーション(広報対応)に区分されますが、組合は特に未然防止のためのリスクアセスメントに重点を置いています。

災害の未然防止と緊急時対応

組合企業は事業活動において、大量の危険物を取り扱っています。したがって、火災・爆発事故・労働災害といった火災の未然防止を最大の課題と位置付け、設備保全や運転管理、社員の教育研修など、あらゆる機会を通じて徹底を図ることとしています。さらに、台風、地震などの自然災害やテロ対策を含めた万一の緊急事態発生に備えて、適切な対応を図る体制を整えています。

特に事故・災害の発生時の対応は、連絡通報および防災活動の指揮方法を定めており、これに基づき適切な防災措置を直ちに行うとともに、体制が機能することを定期的に確認しています。

連絡通報および防災活動の指揮方法



災害発生時の対応

万一、事業所内で災害が発生した場合は、災害発生事業所などにおいて、①災害調査表、②対策および再発防止策実施計画表、③災害原因分析表を作成することとしています。作成後本部に報告され、理事会において検討されます。最終的に本部で共有化し、再発や類似災害の防止を図ることとしています。

品質向上に取り組み、お客様に信頼される 魅力ある組合・企業を目指します。

「世界品質=NGP部品」 エンドユーザーの満足度向上につなげます

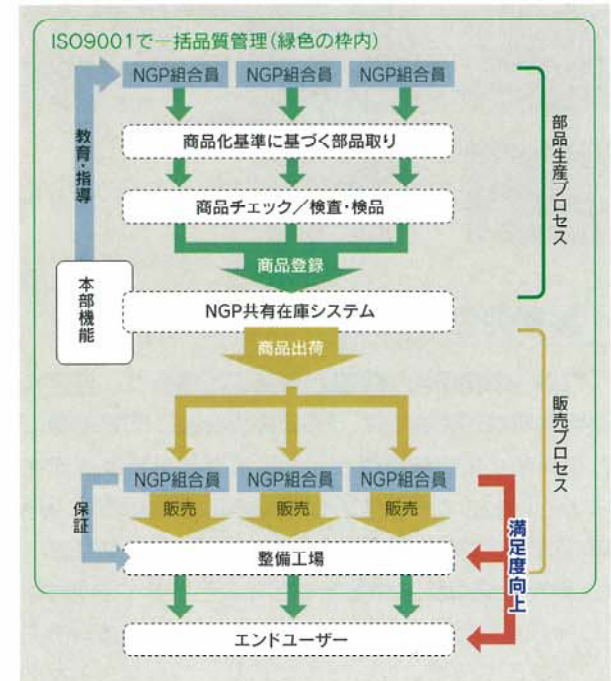
自動車リサイクル部品の品質は、業界の統一基準がありません。NGP協同組合はグループとして発足以来20年間、自動車リサイクル部品を安心して使っていただけるようにするため、グループの中で一定の品質基準を設け、適正な商品だけをグループの共有在庫として取り扱い、市場に供給するよう努力してきました。

この結果、自動車リサイクル部品の世界で「NGPブランド」として定着、業界における品質基準のリーダー役として、市場を牽引してきたと自負しています。しかしグループ内の品質基準は、あくまでも内部の自主的基準でしかありません。

そこで国際的に通用するISO（国際標準化機構）に沿った品質管理を徹底し、一般消費者の方にもわかりやすく、安心して使っていただけるようにと、ISO9001の認証取得を実現しました。

認証取得は、NGP協同組合の本部で取り組みました。すでに内部の品質基準を設けて高品質なリサイクル部品を提供してきたことから、これらを整理し、また不足している部分は補充を行い、一貫した

構築する品質管理体制のイメージ



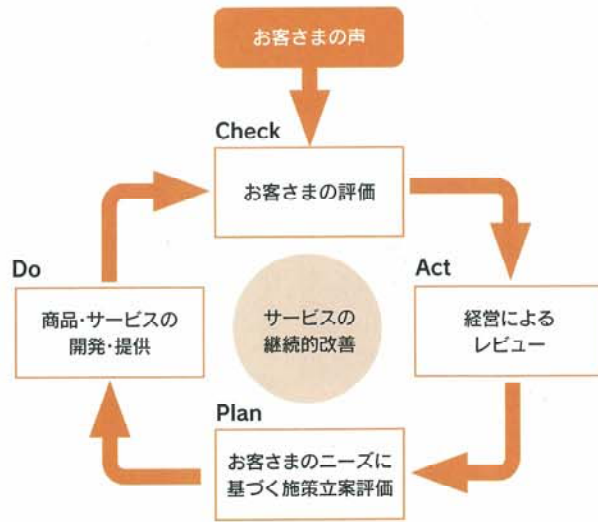
品質管理マネジメントを確立しています。

認証取得後NGPブランドのリサイクル部品は、品質管理の点で「ISO9001の認証を受けたNGP本部の組合員向け商品化基準に従っています」と、エンドユーザーの方へもわかりやすく説明し、利用を薦めることができます。

お客さま満足向上への基本姿勢 サービスの質向上への枠組み

お客さまの声に真摯に耳を傾け、サービスの質を継続的に改善していくため、Plan（計画：施策を立案）、Do（実施：サービスを開発・営業拠点でお客さまに価値を提供）、Check（評価：お客さまからの評価・ご意見を収集）、Act（改善：経営によるレビュー）というPDCAサイクルを回し、お客さま満足度の向上をめざしています。

【お客さまへのサービスの継続的改善プロセス（PDCAサイクル）】



現在でもお客様からのクレーム発生は、本部でデータをしっかり把握しています。クレーム発生がたび重なる組合員に対しては、なぜクレームが発生するのかについて現地調査を行い、再発防止策を指導しています。この取り組みも、ISO9001に沿って体系化しました。

こうした取り組みを通じて、NGPブランドのリサイクル商品が高品質であることをエンドユーザーにわかりやすく説明できるようにし、顧客第一主義を推進していきます。

NGP協同組合は全国最大の環境展「エコプロダクツ2007」に出展

エコカーなどと肩を並べて 自動車リサイクル部品のCO₂削減効果をPR



環境問題は重要な学習項目。元気いっぱいの中小学生が会場に詰めかけ、NGPブースも対応に大忙しだった



会期中、大企業と肩を並べて自動車リサイクル部品がCO₂削減につながることを来場者にしっかりPRした

昨年12月13日～15日に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれた国内最大の環境展「エコプロダクツ2007」に前回に続き、2年連続で単独出展しました。ブースは自動車メーカーやタイヤ・部品メーカーなどが並ぶ区画で、昨年同様、自動車リサイクル部品業界ではNGP協同組合だけの出展となりました。

ブースではリサイクル部品の利用促進を前面に押し出し、制作したばかりのリサイクル部品PR用DVDをモニターに映し出すとともに、新品部品とリサイクル部品の販売価格の違いをディスプレイ表示しました。

また「くるマック」「くるんば」のくるマックキャラクターを描いたエコバッグを用い、その中にリサイクル部品のCO₂削減効果の数値を示したパンフレットを入れ、リサイクル部品の活用が地球温暖化防止につながることを訴えました。開催3日間で用意したエコバック15,000セットをすべて配りました。

初日・2日目と、課外授業の一環でエコプロダクツ会場を訪れる小中学生も多く、くるマック店やリサイクル部品への理解を浸透させるよう工夫した「くるマック環境クイズ」も好評でした。

クイズに答えてくれた人には、くるマックコールセンターのフリーダイヤルを入れた4色ボールペンを手渡しましたが、集中するときは、次から次へと訪れる小中学生への対応に追われました。

今回のエコプロダクツでは、自動車メーカーはCO₂の排出抑制をPRする出展内容が多く、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車などの展示を行っていました。またタイヤメーカーもころがり抵抗を減らしたエコタイヤを前面に出し、燃料高の中での省エネ効果と、地球環境への貢献を訴えていました。

会場全体を見回しても、地球温暖化防止が緊急課題としての一大テーマとして、CO₂排出抑制につながる技術や手法の展示ウエートが高かったように思えます。そのなかでNGP協同組合として使用済自動車の適正処理を訴えながら、リサイクル部品のCO₂削減効果を打ち出し、世界的な課題に応える姿勢を示すことができたのではないかと考えています。

環境マネジメントの推進

当組合は環境改善活動に取り組むために、環境マネジメントシステムを構築し、すべての組合員においてISO14001認証を推進しています。

また、組合員事業所に環境教育を実施し、環境保全に対する意識の高揚を図りつつ、環境改善活動に取り組んでいます。

環境保全に関する方針

基本理念にあるように、今後も環境リサイクル時代の社会貢献活動に取り組みます。行動指針の考え方に基づき、環境保全方針を策定し環境保全、環境負荷の低減、地球環境問題等に対する取組みを推進しています。

ISO14001認証取得を推進

環境保全規則に基づき、環境改善活動を実践しています。

特に組合員企業においては、2008年までに88社がISO14001の認証を取得しており、それぞれの

事業内容や地域特性を考慮して、省エネルギー、リサイクル・廃棄物抑制、大気・水質汚染防止等の環境改善活動に組織的・継続的に取り組んでいます。

商品・サービスを通じた環境貢献

損害保険会社・オートリース会社などと提携し、使用済自動車の適正処理とリサイクル部品を活用する修理の推進に協力しています。

インターネットを活用したリサイクル部品の検索・販売システム「NGPダイレクト」は2006年より開発・提供しています。またホームページによるCO₂削減啓蒙運動を引き続き提案しています。

ISO14001 認証取得会社一覧

取得会社名	登録日	取得会社名	登録日	取得会社名	登録日
(株)辻商会	2003年 1月24日	津田鋼業(株)	2003年 1月23日	(有)西川商会	2004年10月22日
(株)アシスト・フクダ	2003年 1月15日	(株)リベアパーツ	2005年 1月27日	島根オートリサイクルセンター	2006年 8月 8日
(株)マテックELV石狩	2001年 6月 5日	(有)山一商店	2003年 1月22日	(株)オートリサイクルナカシマ	2004年 9月24日
(株)エルバ北海道	2005年 3月29日	(有)堀川自動車商会	2003年10月22日	(株)パーツライン	2003年 1月26日
釧路オートリサイクル(株)	2006年12月27日	(有)メタルオート北陸	2005年 3月24日	(株)オートパーツ伊地知	2001年 6月13日
(有)むつパーツ	2004年12月17日	(株)コマゼン	2003年 3月26日	(株)グッパー福岡	2003年 3月12日
(株)福島リパーツ	2004年12月24日	(株)テラダパーツ	2003年12月18日	(有)ユービー宮崎	2003年 3月28日
(株)永田プロダクツ	2004年 1月14日	(株)テラダパーツ イイダ	2003年12月18日	(株)アールトヨー	2004年11月25日
(有)安澤商店	2004年 9月 8日	(有)オートパーツまるも	2005年 4月12日	(有)イノクチ	2004年12月 9日
(株)ナプロフクシマ	2003年 3月18日	(株)ウイン	2007年 5月19日	オートバクスニエ	2004年12月 9日
(株)エコブリッジ	2004年12月20日	(株)カンザキ	2003年 3月20日	大成自動車(有)	2004年12月 9日
(株)アイエス総合	2004年10月25日	(株)多田自動車商会	2003年 3月18日	(株)パーツランド東部	2004年12月 9日
(株)青南商事 弘前支店	2002年 2月27日	(株)ラ・テール	2003年 3月28日	WARC西日本オートリサイクル(株)	2003年 1月30日
(株)橋木パーツ	2004年 6月 7日	(株)堀尾自動車部品	2003年 2月25日	(有)オートリサイクルナカシマ福岡	2004年 9月24日
(株)共伸商会	2003年12月11日	(株)華山パーツ	2003年 4月25日	(有)タバタ商会	2004年11月25日
(有)黒崎部品	2003年 1月21日	(株)紀南パーツ	2003年 3月25日	(株)エイ・ティ・エム	2003年 3月18日
(株)茨城オートパーツセンター	2003年 2月21日	(株)桜井	2003年 4月25日		
(有)田崎商店	2003年12月 3日	(株)福山セコ	2002年 5月24日		
(株)拓殖商会	2003年12月15日	クレストパーツ	2003年 2月26日	●メイト会員	
(有)しのびや	2003年 2月28日	(有)山陰UP販売	2007年 8月23日	オレンジパーツ平成	2004年12月20日
(株)ユーパーツ	2002年 7月26日	(株)佐伯商会	2004年 1月23日	(有)アンドーカーパーツ	2006年 3月14日
カーステール(株)	2004年 8月 4日	(株)桃太郎部品	2003年 2月20日	(有)まろも商会	2003年10月30日
カーステール(株)東毛営業所	2004年 8月 4日	(株)オートパーツ幸城	2003年12月17日	轟商会	2003年 1月24日
(株)3R	2002年 7月10日	(有)オートパーツ新居浜	2003年 2月27日	●賛助会員	
(株)マルトシ青木	2003年 1月20日	岡崎車輛部品(株)	2003年 2月28日	(有)オートパーツ長谷山	2003年 1月22日
太田部品(株)	2003年 1月29日	(有)東和	2003年 7月23日	(株)オートパーツ三伸	2006年 3月24日
(有)オートパーツ片岡	2004年12月24日	エコテクノ(株)	2004年 1月28日	石上車輛(株)恵庭店	2004年 5月19日
(株)大橋商店	2003年 1月27日	(株)エビス	2003年 9月12日		
(有)安全自工	2003年 3月28日	ウエイクパーツ	2003年 8月29日		
(株)河村自動車工業	2003年11月21日	(株)山陰エコリサイクル	2005年 2月10日		
(有)ツクダ自動車	2004年12月17日	(有)みうら	2003年 2月28日		
(株)ハセ川自動車	2003年 1月21日	(有)國興商店	2004年 1月 9日		
		(株)予洲商事	2004年 1月21日		

取得会社合計数 88

平成20年8月31日現在

省エネルギーの推進活動

省エネによる温室ガスCO₂排出量削減が、ますます重要となり、組合員企業全生産拠点で昨年度よりデータの報告を義務づけして、全体像を数値で把握することに取り組んでいます。

エネルギー消費はそれぞれの事業所において、今後は削減目標を定めて、総合的な省エネ運動につなげていきます。

「エココンボ・オートパーツ(仮称)」でリサイクル部品の環境負荷低減

日本通運株式会社・日通商事株式会社と共同で新しい梱包資材「エココンボ・オートパーツ (仮称)」を開発しました。自動車リサイクル部品の梱包材を繰り返し使える素材に切り替えることで、廃棄物とCO₂排出削減に貢献します。



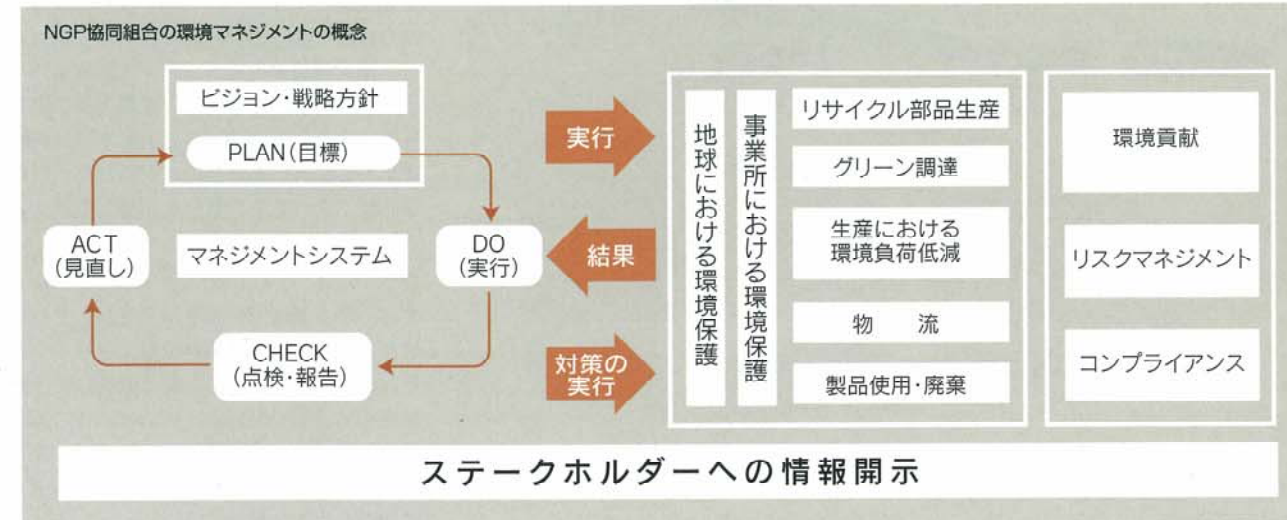
従来はダンボールや緩衝剤を使用し、その都度梱包してきましたが、今後は修理工場に納品後、空容器を回収します。

素材はプラスチックダンボール製で、木や釘、工具を一切使わず梱包できるようにした専用資材(実用新案申請済：日通商事)です。梱包・開梱作業を容易にする専用設計を取り入れ、ドア・アシシーのような重量物も持ち上げずに格納でき、取り出しも簡単で、リサイクル部品を使っていたいる現場での作業負担を軽減します。ワンタッチの折りたたみ式ですので、片付けも容易です。エココンボの使用期間は概ね5年、無駄な資源の消費を減らし環境保全に努めます。

2007年NGP組合員事業所エネルギー消費量

支部	電力(kwh)	水(m ³)	LPG(m ³)	都市ガス(m ³)	ガソリン(kℓ)	灯油(kℓ)	軽油(kℓ)	重油(kℓ)
北海道	2,327,874	4,656	203	71	26	94	260	0
東北	4,141,929	17,259	7,214	315	145	137	925	0
北関東	4,562,917	53,442	3,229	336	63	42	860	72
南関東	769,119	11,128	1,614	2,145	59	28	202	0
北陸	730,410	3,511	376	0	14	40	341	72
東海	1,033,670	7,544	12,938	262	91	17	419	26
関西	675,294	8,272	1,052	2,196	32	8	385	20
中四国	2,017,699	13,413	3,779	30	64	35	1,032	97
九州	1,012,824	7,151	1,930	12	51	10	378	39
合計	17,271,736	126,376	32,334	5,367	545	411	4,804	327
CO ₂ 排出量	9,585,813	45,495	97,228	11,163	1,264,400	1,023,350	12,586,480	886,170
	合計 CO ₂ 排出量 25,500t							

※2007年1月～12月

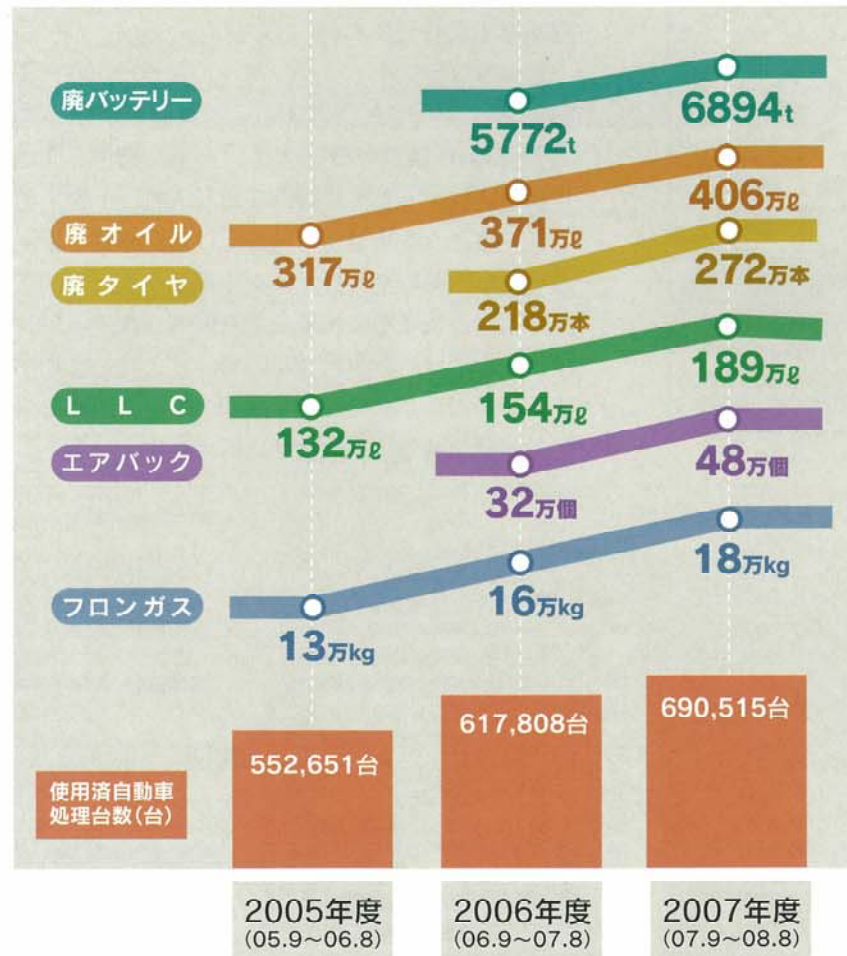


2007年度使用済自動車処理台数・廃棄物回収処理実績 (2007年9月～2008年8月)

支部	使用済自動車処理台数(台)					フロンガス回収処理(kg)					廃オイル回収処理(ℓ)					LLC回収処理(ℓ)			エアバック展開・回収処理(個)					廃タイヤ処理(本)					廃バッテリー処理(kg)						
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%		
北海道	27,202	29,012	56,214	57,101	98.4	7,711	9,348	17,059	14,228	119.9	106,454	128,942	235,396	188,910	124.6	78,429	85,218	163,647	110,501	148.1	18,043	20,470	38,513	26,041	147.9	91,385	202,855	294,240	200,579	146.7	363,917	384,727	748,644	485,750	154.1
東北	43,190	57,144	100,334	84,873	118.2	8,058	9,801	17,859	13,669	130.7	252,424	337,852	590,276	501,265	117.8	109,992	155,095	265,087	211,629	125.3	18,251	33,774	52,025	27,540	188.9	198,781	240,439	439,220	286,220	153.5	342,932	637,811	980,743	549,573	178.5
北関東	54,317	67,537	121,854	108,926	111.9	17,658	20,988	38,646	32,300	119.6	326,592	419,621	746,213	498,632	149.7	194,360	280,032	474,392	430,920	110.1	39,043	59,308	98,351	43,397	226.6	246,541	254,062	500,603	342,267	146.3	515,204	538,705	1,053,909	1,152,301	91.5
南関東	40,465	39,395	79,860	66,841	119.5	11,647	12,484	24,131	19,920	121.1	203,885	200,765	404,650	571,617	70.8	114,360	92,323	206,683	175,179	118.0	29,352	35,775	65,127	58,891	110.6	158,613	149,551	308,164	231,042	133.4	433,055	382,681	815,736	453,130	180.0
北陸	22,563	29,634	52,197	40,681	128.3	5,022	7,014	12,036	9,197	130.9	148,200	206,800	355,000	319,584	111.1	44,710	71,680	116,390	76,960	151.2	14,849	21,020	35,869	26,971	133.0	77,193	101,604	178,797	162,216	110.2	188,221	223,432	411,653	440,819	93.4
東海	32,250	30,050	62,300	58,012	107.4	6,903	7,194	14,097	13,882	101.5	185,314	225,911	411,225	298,559	137.7	89,003	89,560	178,563	144,297	123.7	23,415	24,459	47,874	25,617	186.9	99,831	106,709	206,540	196,405	105.2	302,024	352,032	654,056	524,983	124.6
関西	23,974	28,632	52,606	47,836	110.0	6,547	9,611	16,158	13,145	122.9	96,770	104,385	201,155	165,856	121.3	25,166	46,646	71,812	63,265	113.5	13,750	16,894	30,644	22,038	139.1	69,918	86,896	156,814	145,489	107.8	229,753	273,892	503,645	490,580	102.7
中四国	47,021	59,202	106,223	90,883	116.9	13,555	16,011	29,566	27,299	108.3	314,432	449,274	763,706	780,393	97.9	109,064	190,932	299,996	220,102	136.3	28,572	40,923	69,495	54,202	128.2	201,249	258,991	460,240	410,056	112.2	518,885	606,822	1,125,707	1,125,854	100.0
九州	27,534	31,393	58,927	62,655	94.0	7,080	8,718	15,798	16,033	98.5	167,847	189,029	356,876	393,962	90.6	48,255	63,325	111,580	107,614	103.7	19,330	27,476	46,806	35,675	131.2	85,798	93,454	179,252	212,554	84.3	356,516	242,915	599,431	548,921	109.2
合計	318,516	371,999	690,515	617,808	111.8	84,181	101,169	185,350	159,673	116.1	1,801,918	2,262,579	4,064,497	3,718,778	109.3	813,339	1,074,811	1,888,150	1,540,467	122.6	204,605	280,099	484,704	320,372	151.3	1,229,309	1,494,561	2,723,870	2,186,828	124.6	3,250,507	3,643,017	6,893,524	5,771,911	119.4

※2007年9月～2008年2月(上期)／2008年3月～8月(下期)

●使用済自動車処理台数と廃棄物回収実績の推移 (2007年9月～2008年8月)



使用済自動車

事故による全損車輦やリースアップ車輦を積載車輦にて引取りします。引取・処理には自動車リサイクル法の引取業者、フロン類回収業者、解体業者、破碎業者の登録・許可が必要です。当組合では、使用済車輦適正処理を実施する全国ネットワークとして、電子マニフェスト(移動報告)による管理を徹底しています。

フロンガス

カーエアコンの冷媒として使われているフロン類は大気に放出すると、オゾン層の破壊や地球温暖化の要因になるため、適正な処理(破壊)をする必要があります。また、回収処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。

廃オイル・LLC

土壌汚染・水質汚濁の原因である廃オイル・LLC等は丁寧に回収しなければなりません。また、浄化槽設備を充実させ、工場敷地外への流出防止に努め、土壌汚染・水質汚濁の影響調査を実施するように指導しています。回収後には、適正引取業者に処理委託をおこない、引取業者証明書によってその状況を把握しています。

エアバック

エアバック類はガス発生剤を使用しており爆発性があるため、使用済自動車のリサイクルを適正かつ確実にを行うため、解体業者は使用済自動車を引取ったときは、「エアバック類」を適正に処理する必要があります。また、回収、及び破壊処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。

参考

自動車リサイクル法

自動車リサイクル法は、使用済みの車両の積極的なリサイクル、適正処理を行うために、車両の所有者や自動車メーカーなどの役割を定めた法律で、2005年1月1日に施行されました。

リサイクル法の対象となるのは、この3品目

- ① エアコンの冷媒として使われ、大気に放出されるとオゾン層を破壊して地球温暖化に影響する「フロン類」。
- ② 爆発性があるため処理が難しい「エアバッグ類」。
- ③ 使用済みのクルマから使える資源を回収した後に残る「シュレッダーダスト(ASR)」。

3品目がきちんと回収されて再生利用されれば、約80%だった従来の車両のリサイクル率が、95%以上にまで向上するといわれています。

それぞれの役割は？

クルマの所有者

リサイクル料金を支払い、使用済み自動車を引取事業者へ引き渡す。

引取事業者

所有者からクルマを引き取り、フロン類回収業者、解体事業者に引き渡す。

- フロン類回収事業者
- 解体事業者
- 破碎事業者

各事業者は、適正に回収・処理する。

自動車メーカー・輸入業者

自社製品のフロン類、エアバッグ類、ASRを引き取り、リサイクルする。

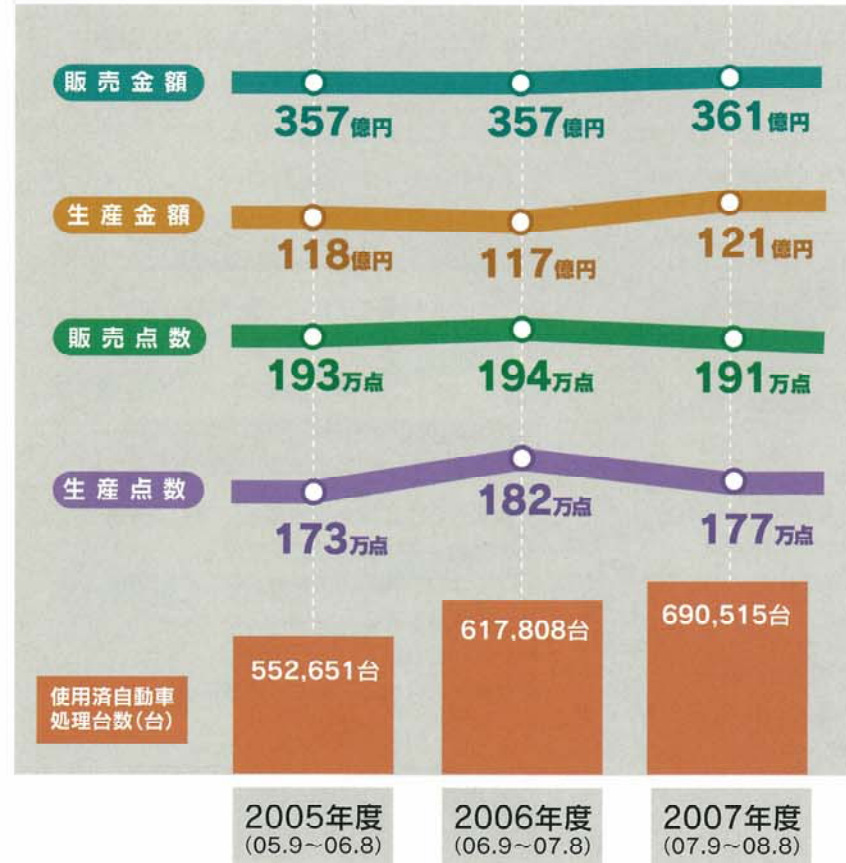
2007年度リサイクルパーツ生産・販売実績 (2007年9月~2008年8月)

都道府県	リサイクルパーツ 生産点数 (点)					リサイクルパーツ 生産金額 (単位千円)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	109,013	125,730	234,743	235,386	99.7	579,898	696,021	1,275,919	1,202,998	106.1
東北	119,408	111,928	231,336	238,576	97.0	690,327	712,331	1,402,658	1,345,766	104.2
北関東	106,176	110,616	216,792	213,262	101.7	814,564	903,076	1,717,640	1,660,813	103.4
南関東	88,850	80,557	169,407	189,165	89.6	582,734	582,256	1,164,990	1,247,820	93.4
北陸	77,240	80,337	157,577	150,956	104.4	567,974	619,462	1,187,436	1,027,330	115.6
東海	97,614	103,214	200,828	190,331	105.5	741,017	847,499	1,588,516	1,467,199	108.3
関西	54,717	53,624	108,341	112,138	96.6	429,077	461,825	890,902	885,917	100.6
中四国	127,984	133,203	261,187	259,622	100.6	845,667	933,338	1,779,005	1,649,169	107.9
九州	95,664	98,079	193,743	232,381	83.4	525,566	557,534	1,083,100	1,204,333	89.9
合計	876,666	897,288	1,773,954	1,821,817	97.4	5,869,093	6,248,279	12,117,371	11,752,527	103.1

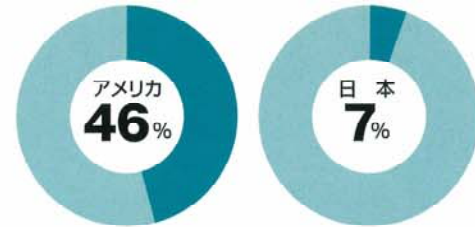
※2007年9月~2008年2月(上期)/2008年3月~8月(下期)

都道府県	リサイクルパーツ 販売点数 (点)					リサイクルパーツ 販売金額 (単位千円)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	106,176	125,730	231,906	235,386	99.8	1,773,639	1,793,857	3,567,496	3,507,062	101.7
東北	119,408	111,928	231,336	238,576	97.0	1,567,029	1,623,612	3,190,641	2,978,438	107.1
北関東	106,176	110,616	216,792	213,262	101.7	3,095,609	3,318,989	6,414,598	6,272,131	102.3
南関東	88,850	80,557	169,407	189,165	89.6	2,762,660	2,859,323	5,621,983	5,679,082	99.0
北陸	77,240	80,337	157,577	150,956	104.4	1,208,425	1,264,649	2,473,074	2,376,188	104.1
東海	97,614	103,214	200,828	190,331	105.5	2,347,837	2,498,255	4,846,092	4,802,714	100.9
関西	54,717	53,624	108,341	112,138	96.6	1,155,813	1,215,818	2,371,631	2,369,390	100.1
中四国	127,984	133,203	261,187	259,622	100.6	2,006,716	2,131,347	4,138,063	3,950,002	104.8
九州	95,664	98,079	193,743	232,381	83.4	1,682,950	1,768,147	3,451,097	3,850,711	89.6
合計	876,666	897,288	1,773,954	1,821,817	97.4	17,687,746	18,475,657	36,163,403	35,695,110	101.1

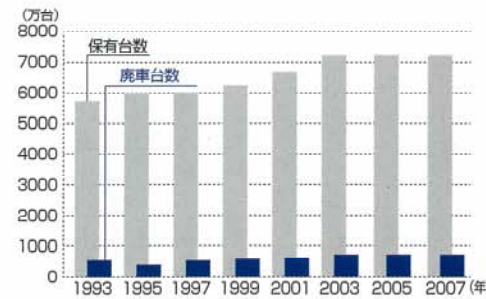
●リサイクルパーツの生産・販売実績の推移 (2007年9月~2008年8月)



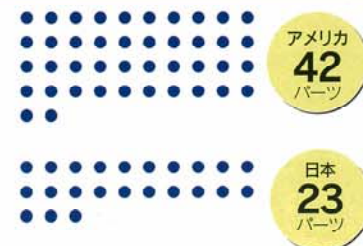
補修部品全体に占める リサイクルパーツの比率



国内での保有台数と 推定廃車台数の推移



1台の廃車から取り出す リサイクルパーツ数(平均)



リサイクル部品利用によるCO₂削減効果の公表について

環境問題からリサイクル部品によるCO₂削減効果を早稲田大学環境総合研究センターとJAPRA (日本自動車リサイクル部品販売団体協議会) の共同研究で07年6月より公表することにしました。データはJAPRAシステムとNGPシステムの販売点数からCO₂削減の数値を毎月計測して発表します。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 (NGP販売分より) 2007年度分

	2007年 9月	10月	11月	12月	2008年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
販売点数	158,798	178,616	165,327	141,698	152,510	156,793	159,554	154,399	148,078	148,686	167,896	141,881	1,874,226
CO ₂ 削減値 (kg-)	7,256,050	8,175,975	7,563,948	6,469,429	6,980,965	7,184,603	7,319,332	7,079,787	6,780,487	6,803,584	7,639,955	6,456,552	85,710,667

リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム

- 目的**
現在、地球温暖化防止問題は国際的課題であり、わが国でも「京都議定書」に基づくCO₂排出削減目標が決定されているが、その達成が困難視されている。またCO₂排出削減目標も大手企業の課題として受け取られており、中小企業は範疇外となっているのが現状。
自動車リサイクル部品の流通に携わる業態は中小零細企業が多いが、今回の産学協同研究の結果、リサイクル部品の流通そのものがCO₂排出削減に寄与することが数値的に明確になったことから、業界団体である日本自動車リサイクル部品販売団体協議会は、加盟団体9グループ (部友会・システムオートパーツ・自動車補修部品研究会・日本パーツ協会・トータルカーリサイクルグループ・シーライオンズクラブ・ジャパンエコネット会・テクルスネットワーク・リビルド工業会全国連合会) 及び有力会員であるNGP事業協同組合と協力して販売データを集約し「CO₂排出削減量」を公表、国が目指すCO₂削減活動の一助とすることにした。
- 実施概要**
①早稲田大学環境総合研究センターは、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会 (以下リサイクル部品協議会という) の協力を得て、自動車リサイクル部品の環境負荷削減効果に関するデータベースの蓄積と個々部品の効果ポイント数値の精度を上げる。毎年の継続した研究テーマとする。
②リサイクル部品協議会は、JAPRAシステム及びNGPシステム上の
- 今後の展開**
①早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、継続してリサイクル部品に関する環境負荷削減の共同研究を続ける。
②早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、日本国内での「CO₂排出権取引」開始を想定、業界としての参画の検討及び「リサイクル部品のCO₂排出削減寄与」の位置付けを検討する。
③早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、「リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム」の国際的な普及・啓蒙を促す活動を進める。

環境エコバランスデータ(2007年度)

2007年9月~2008年8月

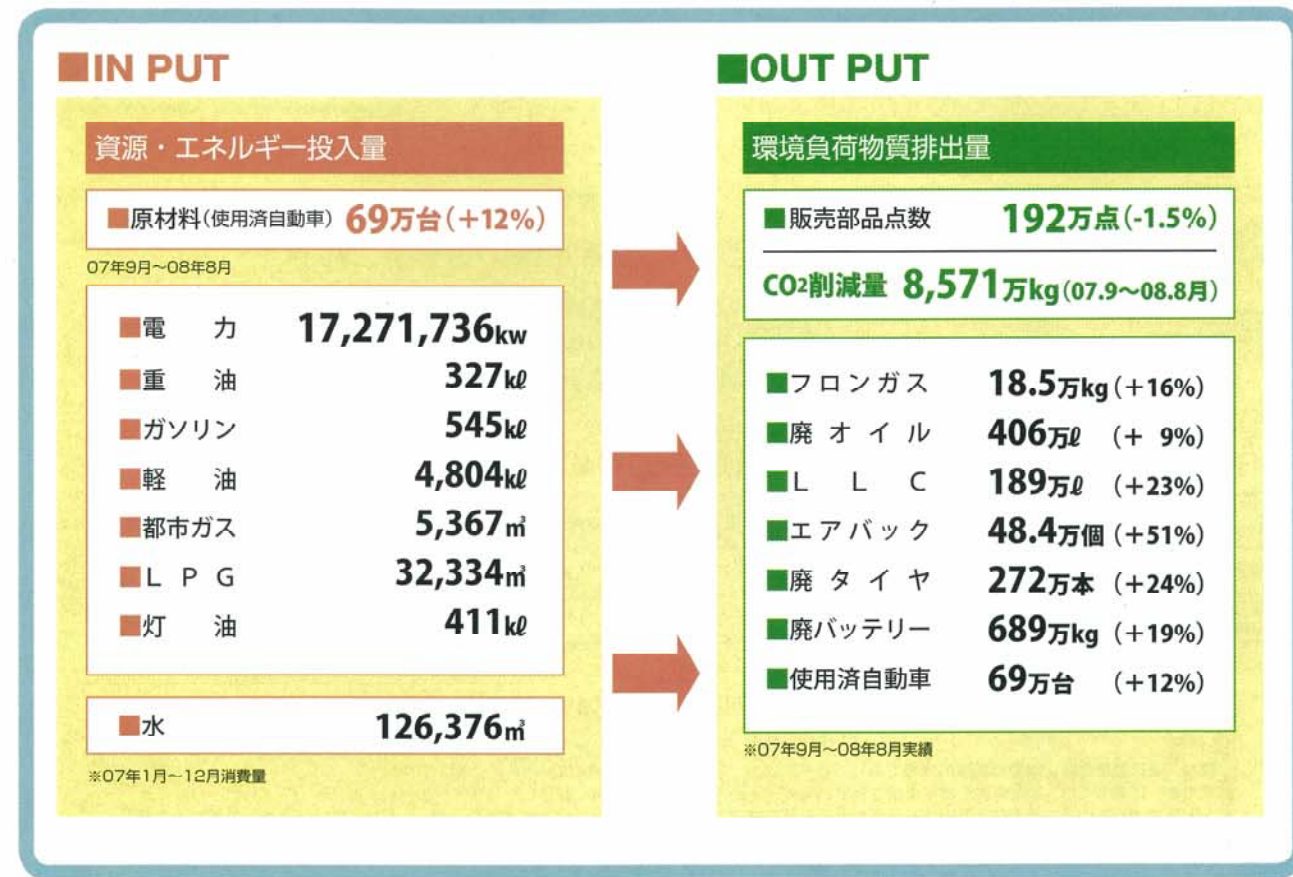
生産活動に伴って発生する環境負荷を把握するための集計

事業活動における投入資源と排出環境負荷

資源・エネルギーの投入量(インプット)と排出量(アウトプット)を定量的に収集することで、総合的・効率的な環境負荷低減活動をしています。

2007年度はオートアフターマーケット不況により生産量は対前年比とほぼ同様ですが、生産性の効率

向上や資源の再利用化を推進した結果、資源・エネルギーの投入量はわずかに減少しました。環境負荷物質の排出については生産活動にともないばらつく項目があるものはほぼ横ばい状態でした。それぞれの環境負荷削減を今後も計画的に進めていきます。



環境リスクマネジメント

事業所の立地条件や事業内容から想定される環境リスク(環境事故・汚染・法令違反など)を特定し、未然防止とリスクの最小化に取り組んでいます。特に「自主基準を超える排水・排出ガス」「油・化学物質の漏えい事故」「土壌・地下水汚染」「騒音などの近隣からの苦情」については『①異常を発生させな

い ②万一発生した場合は、被害の最小化と確実な情報開示』を方針に、日常点検・監視測定などの対応訓練を行っています。

そしてリスクマネジメントの推進にあたっては、環境法規制を上回る独自の厳しい基準を設定し、国内外の環境管理に適用しています。

公正で透明性の高い購買体制の指導

当組合企業は、お取引先とのパートナーシップに基づく公平・公正な購買取引を推進し、お取引先と相互利益関係の実現を目指しています。

取引行動指針

1. 透明性 オープンに徹し透明性のある取引を行います。
2. 公正 お取引先の選定は公正な評価に基づき行います。
3. 法令遵守 関連法規を遵守しかつ法令の箇々の条項だけでなく、その精神をも尊重し、業務を遂行します。
4. 環境保全 環境を重視し、積極的に「グリーン購入」を進めます。
5. 相互信頼 お取引先との対等なパートナーシップに基づく取引を通じ、信頼関係を築きます。
6. 倫理 厳正な倫理観に基づくお取引先との適切な関係を維持します。

VOICE

使用済み自動車の適正処理とリサイクル部品普及に邁進します 社内業務での省エネも含めてCO2削減を展開

環境委員会は「CSRレポート」の発行、「エコプロダクツ」の出展などを通じて、使用済自動車の適正処理と地球温暖化防止対策に積極的に取り組む活動をPRしています。自動車リサイクル部品の普及促進とNGP商品の認知度向上が目的で、これらの活動により全組合員および従業員一人ひとりが環境保全を意識し行動するようになってきたと評価しています。また昨年より組合員各社のエネルギー利用状況に関して「CO2削減の基礎データ」を分析するために、電気、ガス、水道の使用量、灯油・軽油・ガソリンの使用量についても組合員から報告を義務づけて、事業活動におけるCO2排出削減の取り組みをさらに強化しようと思います。当組合事業所は規模も立地・設計も異なり、データ収集には手間取りましたが、今後はこのデータの集計と分析をさらに進め、エネルギー効率を比較できる数値把握と省エネルギーに取り組めます。環境対策はとにかく原理原則に立ち返り、日々の運営管理のわずかな努力の積み重ねですので、外部からの助言も含め、さらに力を入れて取り組んでまいります。

胡 定晃 環境委員長

責任ある企業行動のためのさまざまな取り組みと安全と環境を調和した製品を通じ社会に貢献します

毎年、新車モデルが日進月歩で開発されています。同様に、これまで展開してきたNGP協同組合のさまざまな活動は定期的に経済・環境・社会の観点から見直しすることが、今後も必要と感じています。明確な方針の作成から企業経営責任のあるべき姿の形成など、組合員企業・グループのレベルアップこそがCSR活動の推進に直結すると考えています。CSRの考え方の浸透や活動の展開については、各委員会、各地域・各社の取り組みを基本にして、グループ全体で活動を推進していくための仕組み等の整備を進めたいと思います。当委員会では今後も新たな事業、商品展開にあたっては社会要請に対応するCSR観点を常に優先できる組織づくりに取り組みたいと思います。

杉之間大和 総務広報委員長

明るくやりがいのある職場

当組合の各事業所は、一人ひとりが持てる力を十分に発揮できる職場を目指し、透明で公正な評価制度を整え、社員の意欲を尊重した人事制度を運用しています。

人事の基本方針

次に掲げる4点を人事の基本方針としています。

- ① 適材適所・人材育成を旨とした人事配置・ローテーションの実施
- ② 透明・公正、かつ実力主義による評価・処遇の実現
- ③ 企業実力に見合った労働条件の設定と社会的要請に対する迅速な制度的対応
- ④ 能力開発のための教育機会の積極的提供

今後さらに以下の課題で取組みを推進します

- 充実した教育カリキュラム
- 安全啓発活動
- 女性社員の活躍できる職場づくり
- 定年退職者の「再雇用制度」づくり
- 障害者雇用の促進

プライバシーポリシー

個人情報の取り扱いと管理について

規定遵守の呼びかけとともに、きめ細かな指導を行っています

2005年4月から施行された個人情報保護法に対応して、本組合では個人情報保護ガイドラインを策定し、組合員への周知徹底を行ってきました。2007年度からはコンピュータセキュリティを強化し、機密情報保護の内容を加えてコンテンツの見直しを行うとともに、Winnyなど新種のソフトに対応する注意の喚起など社会情勢にあわせたセキュリティの強化を今後も進めていきます。

個人情報保護方針

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（以下「本組合」という。）は、本組合の事業活動を通じて得た個人情報の保護に努めることを社会的責務と認識し、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めます。

1. 個人情報の取得について

本組合は、適法かつ公正な手段によって、個人情報（氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX、メールアドレス、所属組合、役職、その他の記述により当該本人を識別できるもの）を取得いたします。

2. 個人情報の利用について

本組合は、本組合の事業活動やサービス提供の過程で収集した個人情報を本組合事業活動及びサービス提供とこれに付随する業務を行う目的の範囲内で利用させていただきます。

上記以外の目的で利用する必要がある場合には、あらかじめご本人の承諾を得ることを前提といたします。

また、収集した個人情報の取扱いを外部に委託する場合には、委託先について厳正な調査を行ったうえで、個人情報の漏洩等の事故が発生しないよう適正な監督を行います。

3. 個人情報の第三者提供について

本組合は、下記の場合を除き、個人情報を、事前に本人の同意を得ることなく、第三者に提供いたしません。

- (1) 法令に定める場合
- (2) 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受け法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

4. 個人情報の管理について

- (1) 本組合は、個人情報の正確性を保ち、これを安全に管理いたします。
- (2) 本組合は、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏洩等を防止するため、不正アクセス、コンピュータウイルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じます。
- (3) 本組合は、個人情報を持ち出し、外部へ送信する等によりこれを漏洩させません。

5. 個人情報の開示・訂正・利用停止・消去等について

本組合は、本人が事故の個人情報について、開示・訂正・利用停止・消去等を求める権利を有していることを認識し、これらの要求がある場合には、誠実に対応いたします。

6. 組織・体制

- (1) 本組合は、個人情報保護管理責任者を置くとともに、個人情報を取り扱う部門ごとに部門責任者を置き個人情報の適正な管理を実施いたします。
- (2) 本組合は、役員員に対し個人情報の保護及び適正な管理方法についての研修を実施し、日常業務及び退職後における個人情報の適正な取扱いを徹底いたします。

7. 個人情報保護コンプライアンス・プログラムの策定・実施・維持・改善

本組合は、この方針を実行するため、個人情報保護コンプライアンス・プログラム（本方針・個人情報保護規程その他の規程を含む）を策定し、これを本組合役員員その他関係者に周知徹底させて実施し、維持し、継続的に改善いたします。

丸山 憲一

日本自動車車体整備協同組合連合会会長

高まる期待にCSR推進で的確に対応

自動車車体整備業界は、環境対応型サービス業として、環境問題に対して積極的に対応することが求められています。ご高承のとおり、平成18年4月1日に改正された大気汚染防止法により揮発性有機化合物（VOC）の排出を抑制するために、自主的取組マニュアルに基づき目標の達成に努めるとともに、自動車リサイクル法を遵守するために、様々な課題に取り組んでおります。

一環としてリサイクル部品の活用については、NGP・日本自動車リサイクル事業協同組合との連携を強化するとともに、弊会傘下の所属組合員に対してダイレクトシステムのトライアルを通じて意識の高揚を図っております。

このことは、厳格な生産・商品管理のノウハウを維持して培ってきたNGPパーツは、我が国における自動車リサイクル部品の促進のために、極めて貴重な財産であると思っております。

今年のCSRレポートでは、景気が減速し、自動車リサイクル部品業界を含む自動車業界全体が厳しい経営状況に置かれている中で、NGPの使用済み自動車の年間引取台数やリサイクル部品の総売上金額及びリサイクル部品の総生産額のいずれの数値も、前年実績を上回っているとの報告を受けており、このような実績結果は、社会がいかにNGPに期待しているかを物語るものに他なりません。

昨年9月にNGPはISO9001認証を取得されたことは、NGPのリサイクル部品が高品質の商品であることを「見える形」にした措置であります。

本レポートでは、このISO9001認証で構築した仕組みによって、顧客のクレームをデータ化し、サービスの質を継続的に改善していることを示すとともに、顧客からの信頼確保がNGPのCSRの最重要課題であるという認識を深めております。

今後とも、NGPパーツの利用を啓蒙し低炭素社会の実現化を図るために、一層の環境事業経営に取り組まれることを期待いたしております。

安達 宏之

有限会社 洛思社
環境法・CSR・ISO部門チーフディレクター
CRAR登録環境マネジメントシステム審査員

「本業の環境貢献」で積極的に対話を

自動車のリサイクル部品の品質が確保されなければ自動車リサイクルそのものの発展は図れません。

その意味では、NGPの社会的責任において最も重要なものは、自ら取り扱う製品を高品質な状態で維持し、本業である自動車リサイクルを適正に推進させることだと思います。NGPのCSR推進においては、常に本業において環境貢献がどれほど達成できるかという視点が大切でしょう。

その意味で今年のCSRレポートでは、この「本業の環境貢献」が随所に見られることが重要なポイントとなっています。使用済自動車処理台数と廃棄物回収実績の上昇など、リサイクルの着実な進展を示しながら、リサイクル部品利用によるCO₂削減効果を数値化して公表することで、環境貢献の進捗状況がわかりやすく理解できます。自動車リサイクル部品の梱包材を繰り返し使える素材に切り替えていくための試験的な取り組みを始めたことも、こうした本業での取り組みがあるからこそ、その真剣度を垣間見ることができるのです。

また、これら取り組みの前提となる、ISO9001認証を取得してマネジメント体制を強固にしたことも重要なことです。組合本部へのヒアリングを通して、動き出して間もないISO9001認証の仕組みを皆さんが積極的に活用し、顧客クレームの削減に真摯に取り組む姿も確認できました。

さらに、エコプロダクツや洞爺湖サミット記念環境展への出展など、ステークホルダーと積極的に対話する姿勢が昨年に比べてより明確に示されたことも高く評価できます。今後は、NGPへのエンドユーザーの期待について具体的に紹介し、それに回答するなど、さらに踏み込んだ誌面展開を期待します。

NGP日本自動車リサイクル 事業協同組合員名簿

(2008年10月現在)



コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
北海道				
101	橋社商会	079-8431	旭川市永山町11丁目30番地2	0166-47-2771
102	御まゐり八田商会	098-0333	上川郡剣淵町元町1番地2号	0165-34-2457
103	御アシスト・フクダ	041-0824	函館市西栲町818-17	0138-48-2000
104	御プロス	067-0022	江別市江別太403-1	011-380-2633
105	ピークル大東開発	059-1365	苫小牧市字植苗166-3	0144-51-8008
106	御ケーエー車輛	061-1270	北広島市大曲804番地37	011-377-5577
107	御空知オートパーツ	079-1101	赤平市共和町220番地58	0125-34-4100
108	御オカダオートパーツ	082-0004	河西郡芽室町東芽室北1線6番25	0155-62-6833
109	御アルス	085-0063	釧路市文苑3丁目49番8号	0154-38-4471
111	御マテックELV石狩	061-3244	石狩市新港南1丁目22番地16	0133-60-4828
112	御エルパ北海道	080-2463	帯広市西23条北4丁目1-27	0155-38-8011
113	御ロードオートリサイクル	084-0925	釧路市新野24-1084	0154-57-3718
114	御ポールド	099-0070	北見市東相内町664番地2	0157-66-5775
115	御子スイ	098-6642	稚内市声筒1丁目11-4	0162-26-8151
101-01	Rパーツモイ	078-3165	留萌市藤山町16	0164-43-5330
青森県				
201	御近田商事	039-1563	三戸郡五戸町字大谷沢1番地02	0178-62-5471
204	御むつパーツ	035-0043	むつ市南赤川町10-18	0175-22-1021
215	御エコブリッジ	031-0071	八戸市沼館1丁目15-12	0178-73-1117
217-01	御青森南車 弘前支店	038-1304	青森市浪岡大字高屋敷字社元14-1	0172-69-1199
217-03	御青森南車 八戸支店	039-2246	八戸市栲栲野工業団地2丁目10-36	0178-28-8727
秋田県				
207	御サン・アール	015-0011	由利本荘市石脇字尾花沢57	0184-22-5740
219	御現代	017-0204	鹿角郡小坂町荒谷字手紙沢64番地63	0186-29-3990
岩手県				
211	御二陸パーツセンター	028-1361	下閉伊郡山田町糠豆15-21-1	0193-81-1155
217	御青森南車 盛岡支店	028-3602	紫波郡矢野町大字藤沢第10地割字大下田1833019-698-3399	
山形県				
206	御永田プロダクツ	998-0875	酒田市東町1丁目24番地16号	0234-22-0307
206-01	御永田プロダクツ山形パーツセンター	990-0001	山形市穂積97番地1	023-626-1288
217-02	御青森南車 酒田支店	998-0005	酒田市大字宮海字南浜1-101	0234-35-0120
宮城県				
202	御西武オートパーツ	989-6135	大崎市古川稲葉字亀の子71番地	0229-23-3071
203	御大友自動車工業	981-1241	名取市高屋野字島西9番地017	022-386-2461
216	御アイエス総合	987-0511	登米市迫町佐沼字敷田56-1	0220-21-5153
217-04	御青森南車 仙台支店	985-0011	塩釜市真山通り1丁目45の20	022-361-6669
福島県				
205	御福島リパーク	963-0102	郡山市安積町笹川字北向72	024-946-1180
209	御安海商店	969-0104	西白河郡泉崎村大字上礼堂55-1	0248-27-1736
210	御富山商会金屋工場	963-0725	郡山市村町金屋字マセロ48	024-944-1280

コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
福島県				
212	御オートセンターNAO	969-6200	大沼郡津美里町宮里12	0242-55-1055
213	御ナプロクシマ	979-1525	双葉郡浪江町大字高瀬字小高瀬田189-2	0240-35-0100
214	御カンジ自動車商会	960-0241	福島市笹谷字中ノ畑45	024-555-5131
218	御テック	970-1147	いわき市好間町大和字井田140	0246-47-1521
220	御権並商会	963-0724	郡山市村町上行台字北古川147-1	024-944-4100
茨城県				
305	御茨城オートパーツセンター	319-0106	小美玉市聖倉634	0299-48-1398
306	御田崎商店	307-0013	結城市大字中134	0296-32-1893
310-05	ユーパーツ水戸店	310-0035	水戸市東原2-1-35 小林ビル2階	029-226-4261
栃木県				
302	御栃木オート	327-0821	佐野市高萩町399	0283-23-3256
308	御しのぶや	329-3215	那須郡那須町大字寺乙2890	0287-72-0450
309	オートパーツワイイ	321-0971	宇都宮市海邊町179	028-662-2287
310-03	ユーパーツ宇都宮店	321-0942	宇都宮市緯2丁目4番5号 リンステイト1階	028-649-5967
群馬県				
307	御拓殖商会	370-0105	伊勢崎市内伊与久3097番地1	0270-76-3683
311	カーシステム	371-0852	前橋市越前町2913番地	027-251-6365
310-04	ユーパーツ前橋店	371-0847	前橋市大友町3-9-2 第2伸栄ビル3F	0272-55-5651
311-01	カーシステム栃東毛営業所	370-0321	太田市新田木崎町1780	0276-56-6411
新潟県				
301	御佐藤商事	959-3106	村上市切田1042-2	0254-62-2178
303	御共伸商会	950-3307	新潟市北区樋ノ入1389-3	025-386-1555
304	御黒崎部品	950-1122	新潟市西区木場1634番地1	025-377-2410
316	リ・パーツ御坂井自動車	956-0112	新潟市秋葉区新保3513番地	0250-61-0601
303-01	エコリサイクル共伸生産工場	950-3102	新潟市北区島見町3208-10	025-255-3055
埼玉県				
310	御ユーパーツ	360-0023	熊谷市佐谷田1285-2	048-524-0610
312	御3R	346-0028	久喜市河原井町17	0480-26-3559
314	御CRS埼玉	350-0833	川越市芳野台2-8-36	049-228-5111
315	メタルリサイクルパーツセンター	350-0166	比企郡川島町戸守440番地	049-299-2733
310-01	ユーパーツ大宮店	331-0812	さいたま市北区宮原町3-167 桜井ビル1階	048-652-0505
310-02	ユーパーツ熊谷店	360-0023	熊谷市佐谷田1202-1 2F	048-528-7641
東京都				
405	御オートパーツ片岡	190-1201	西多摩郡瑞穂町二本木753番地03	042-556-2735
411	三協自動車	182-0001	調布市緑ヶ丘1-37-3	03-3300-0685
412	御安全自工	133-0002	江戸川区台河内2-8-15	03-3677-3331
421	御ユピック	144-0051	大田区西蒲田6-36-11 西蒲田NSビル8F	03-3736-0431
310-06	ユーパーツ八王子店	192-0907	八王子市長沼町2063ブルーパルビル1F	0426-37-5580
310-08	ユーパーツ足立店	123-0851	足立区梅田7-24-12 有賀サンハイツ2F	03-5845-1371
310-09	ユーパーツ練馬店	177-0041	練馬区石神井町2-13-17 龍英ビル2F	03-3904-1890

コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
千葉県				
406	御オートパーツ千葉	289-2101	匝瑳市香海74-1	0479-73-0830
407	御トキオ商会	285-0066	佐倉市上別所字和田野118-1	043-498-2461
408	御新星オートパーツ	284-0008	四街道市鹿ヶ丘204-1	043-423-2700
414	御オートサービス東関	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町429-1	043-257-9449
416	御リサイクルガレージケーワン	274-0053	船橋市豊富町640番地5	047-457-5758
417	御ベストパーツ	290-0047	市原市岩崎911-1	0436-24-4182
310-07	ユーパーツ千葉店	260-0018	千葉市中央区院内2-12-1 金子ビル1F	043-223-6423
315-01	メタルリサイクルパーツセンター	277-0924	千葉市東区旭野1-9-4	04-7190-0980
神奈川県				
404	御タイガー商会	214-0031	川崎市多摩区東生田4-6-3	044-976-1487
409	御大橋商店	235-0021	横浜市磯子区岡村5-21-15	045-761-6551
410	御オートパーツ神奈川	243-0034	厚木市船子247-1	046-220-1441
413	御ユアードアイ	246-0002	横浜市瀬谷区北町26-9	045-921-4479
418	御トライアル	224-0034	横浜市都筑区勝田町1030-1	045-595-3036
419	御杉之園	256-0815	平塚市小八幡4-10-10	0465-46-1082
420	御山崎自動車商会	254-0075	平塚市中原3丁目3番33号	0463-32-5852
401-01	御ヤタパーツ湘南営業所	250-0863	小田原市飯泉500-1 255ビル2F	0465-47-7782
山梨県				
415	御河村自動車工業	400-0113	甲斐市富竹新田1657-2	055-276-5958
静岡県				
401	御ヤタパーツ	410-0011	沼津市岡宮736	055-921-9678
402	御マルトシ青木	426-0002	藤枝市横内2250番地	054-644-5856
402-01	御マルトシ青木浜松営業所	435-0033	浜松市南区石原町587-1	053-468-2290
403	太田部品	417-0011	御殿場市古沢986-4	0550-89-5110
422	御コーエイ	435-0016	浜松市東区和田町988-1	053-462-1128
長野県				
403-01	太田部品御長野営業所	399-8201	安曇野市豊科南郷高1228-2 斎藤ビル1階2号室	0263-71-2305
505-01	御ハセ川自動車長野営業所	383-0054	中野市立ヶ花413番地	0269-24-7124
604-01	御テラダパーツツイダ	399-3302	下伊那郡松川町生田823の5	0265-34-1522
609	御小銃パーツセンター	384-0093	小諸市和野639-1	0267-23-7588
613	御アートパーツ長野	390-0852	松本市島立1132-21	0263-40-2100
岐阜県				
603	御カーパーツコンドウ	503-0848	大垣市古宮町長畑507-1	0584-89-7148
605	トヨタエコパーツ岐阜	509-0201	可児市川合字上田2749-48	0574-62-2328
508-01	御山一商店高山営業所	506-0041	高山市下切町1757	0577-35-5963
605-01	トヨタエコパーツ岐阜 岐阜店	500-8132	岐阜市ニヶ崎町1丁目18番地	058-249-5785
愛知県				
601	御名古屋解体メカイクパーツ	463-0003	名古屋市中区下志段味落合376番地	052-736-4741
602	御コマゼン	498-0066	弥富市橋1丁目26番地02	0567-68-4182
604	御テラダパーツ	448-0807	刈谷市東刈谷町2丁目6-12	0566-22-3709
606	御吉田商会	440-0086	豊橋市下地町新道29番地	0532-53-3907
607	御佐竹自動車部品	473-0924	豊田市花園町東大切148	0965-52-0015
608	アーケ	461-0045	名古屋市中区之郷天字133番地	0568-26-6363
610	御サイトゥパーツ	442-0006	豊川市三崎子町野添59-1	0533-86-2408
612	御川原商会	494-0018	一宮市富田字砂入1936番地1	0586-62-1757
614	御ジーパーツ	470-2531	知多郡武豊町大字富貴字北陽45-7	0569-74-1007
615	御ウン	444-3173	岡崎市瀬尾町長坂92番地05	0564-27-7022
616	御ウイン	444-0943	岡崎市矢作町桜海道37番地	0564-33-5757
310-10	ユーパーツ名古屋店	460-0012	名古屋市中区千代田11-11 ヌマギキビル2階	052-243-9000
604-02	御テラダパーツ小田江営業所	448-0813	刈谷市小田江町御茶屋下55-2	0566-26-5537
604-03	御テラダパーツ半田営業所	475-0034	半田市東徳田町118番地2	0569-25-0045
三重県				
611	御オートパーツまるも	512-1105	四日市市水沢町3861番地01	059-329-3987
617	御富士クラッチ工業所	510-0001	四日市市八田3丁目7番9号	059-364-5252
富山県				
505	御ハセ川自動車	937-0009	魚津市寺町68-3	0765-22-6510
508	御山一商店	932-0031	小矢部市岡260-1	0766-67-2721
509	御堀川自動車商会	935-0053	氷見市万尾840番地1	0766-74-3022
石川県				
501	御ツクダ自動車	924-0027	白山市相川町1824	076-276-1593
504	御金沢ヨコイ部品	920-0211	金沢市赤3丁目3の2	076-239-4510
507	御リペアパーツ	926-0828	七尾市白鳥町58-13-1	0767-57-2114
510	御メタルオート北陸	923-0811	小松市白江町 062番地	0761-21-0168
福井県				
502	御サンシャインネットパーツ	910-0804	福井市高木中央1丁目3404	0776-57-1236
503	御ナカスジオオートパーツ	919-0445	坂井市春江町中筋高1-2	0776-51-3253
506	津田調業	915-0235	越前市不老町29-7	0778-43-1701
滋賀県				
701	御カシヤキ	527-0034	東近江市沖野2丁目1番6号	0748-22-1389

コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
京都府				
702	御エコパーツ京都	614-8121	八幡市下奈良小宮44番地の1	075-983-9991
704	御ラ・テール	601-8113	京都市南区上鳥羽南苗代町5-1	075-681-3431
711	御金子商会	624-0101	舞鶴市字大川182番地	0773-82-0130
大阪府				
709	ラップス	583-0005	藤井寺市恋社1丁目12-59	0729-37-0268
713	吉村エコパーツ	583-0847	羽曳野市大黒159-1	0729-58-3815
703-01	御多田自動車商会大阪営業所	553-0002	大阪市福島区洲川1-7-39-103	06-6453-8701
兵庫県				
703	御多田自動車商会	673-0433	三木市福井2265	0794-83-0162
705	御堀尾自動車部品	670-0981	姫路市西庄甲236-2	079-290-4650
710	御桜井	660-0857	尼崎市西向島町15-4	06-6414-2222
和歌山県				
706	御草山パーツ	649-6326	和歌山市和佐中112	073-477-0532
707	御純南パーツ	645-0012	日高郡みなべ町山内56	0739-84-2222
岡山県				
802	御クレストアーツ(御中村解体)	712-8003	倉敷市水島明神町5-20	086-440-2041
805	御桃太郎部品	701-0145	岡山市今保577	086-241-5678
808	御崎車部品	701-4271	瀬戸市市長船町長船1224-1	086-66-8511
814	ウエイパーツ	700-0956	岡山市当新田396-1	086-243-6059
広島県				
801	御福山セコ	721-0952	福山市曙町4丁目6番7号	0849-53-3201
810	御ナカメタル	739-1754	広島市安佐北区小河原町204-7	082-840-1566
811	エコテック/機	731-1526	山県郡北広島町本郷73番地	0826-72-0333
813	御エビス	731-4312	安芸郡坂田町平成ヶ浜4丁目2-78	082-884-1111
803-01	御山陰UP販売広島営業所	730-0045	広島市中区観音町12-25 大田ビル1F	082-240-2466
山口県				
806	御オートパーツ幸城	759-0204	宇布市妻崎間作776-3	0836-44-2412
鳥取県				
809	御東和	689-2304	東伯耆郡琴浦町蓬東48	0858-52-2998
819	御西川商会	680-0942	鳥取市湖山町東3丁目13番地	0857-28-9011
島根県				
803	御山陰UP販売	692-0026	安来市吉佐町2	0854-23-2466
815	御山陰エレクトロリサイクル	690-1312	松江市美保町御森山15番地	0852-72-9301
821	御オートリサイクルセンター	693-0104	出雲市御原町4580-1	0853-48-2605
香川県				
804	御佐伯商会	761-0431	高松市小村町148-3	087-840-3133
愛媛県				
807	御オートパーツ新居浜	792-0893	新居浜市多喜浜六丁目9番84号	0897-67-1577
818	御予洲商事	794-0081	今治市阿方甲501	0898-32-0384
徳島県				